日本企業には存在しない

50年配当を増やす米国企業3選

配当＝地味、大したことない

本気で長期投資に取り組むあなたが、もしそう思っているなら、このレポートは必ず読まなければいけません。なぜなら、上手に正しく“配当の真の実力”を引き出すことができるかできないかで、**リターンに174万円以上もの差がつく可能性があるからです。**
今から、その理由と方法を説明します。

昨今本屋に行けば「高配当投資！」というタイトルの本がずらっと並んでいます。高配当でのリターンを好んで狙う投資家が世の中にたくさんいるようです。もしかしたら、あなたもその一人かもしれません。

配当が投資家を魅了するのはなぜなのでしょうか？考えられる理由はいくつかあります。例えば、売却益に比べて得られる確実性が高いから。

株を売って儲けを得るには、当たり前ですが買った時よりも高い株価で売る必要があります。ですが、株の売買をしたことがある人はお分かりでしょう。買う・売るタイミングの判断は非常に難しいものです。

株価がちょっと上がったら「早く売らなければ」と焦りに駆られ、もっと儲けられたタイミングで売ってしまったり。逆に「もっと上がるかもしれない」と欲をかいて、いつの間にか下がってしまっていたり。

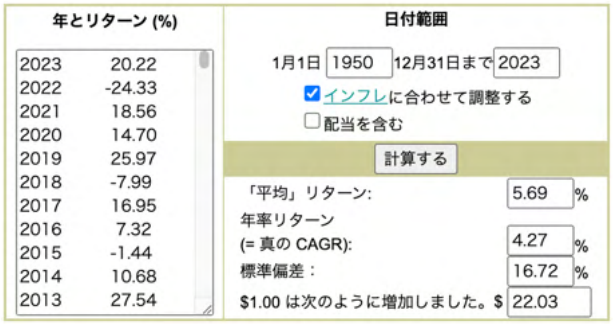
配当で狙うリターンはその判断が要りません。株を放っておくだけで定期的に手に入れることができます。

その一方で、こんなことを感じたこともあるのではないでしょうか？**株を売って手にする売却益と比べるとインパクトが小さく、地味だということ。**

実際、高配当利回りと言われる 3 ～ 4% でも、100 万円の投資額に対して年間 3-4 万円の配当が受け取れる程度です。あったら嬉しい程度の金額で、資産を増やすという観点では物足りないように思えます。

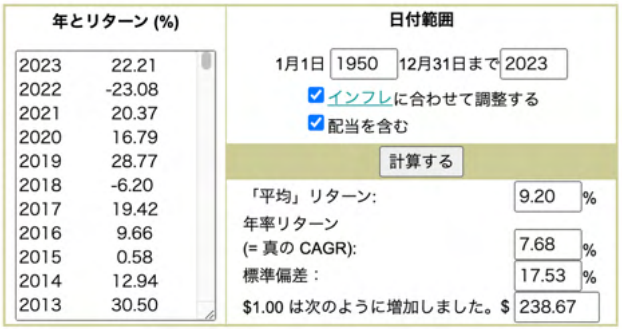
地味で大したことない…。そのイメージは、これらのデータで変わるかもしれません。

このデータは、米国の代表的な株価指数 S&P500 に連動するインデックスファンドに、1950 年から 2023 年の間に投資した時のリターンです。インフレ調整済みの年率リターンは 4.3％。1 ドルは 73 年間で 22 ドルにまで増えたことになります。



（moneychimp より）

これに配当金を入れると、年率リターンは 7.6%。1 ドルは 238 ドルに増えたことに。**およそ 10 倍ものリターンに膨れ上がりました。**

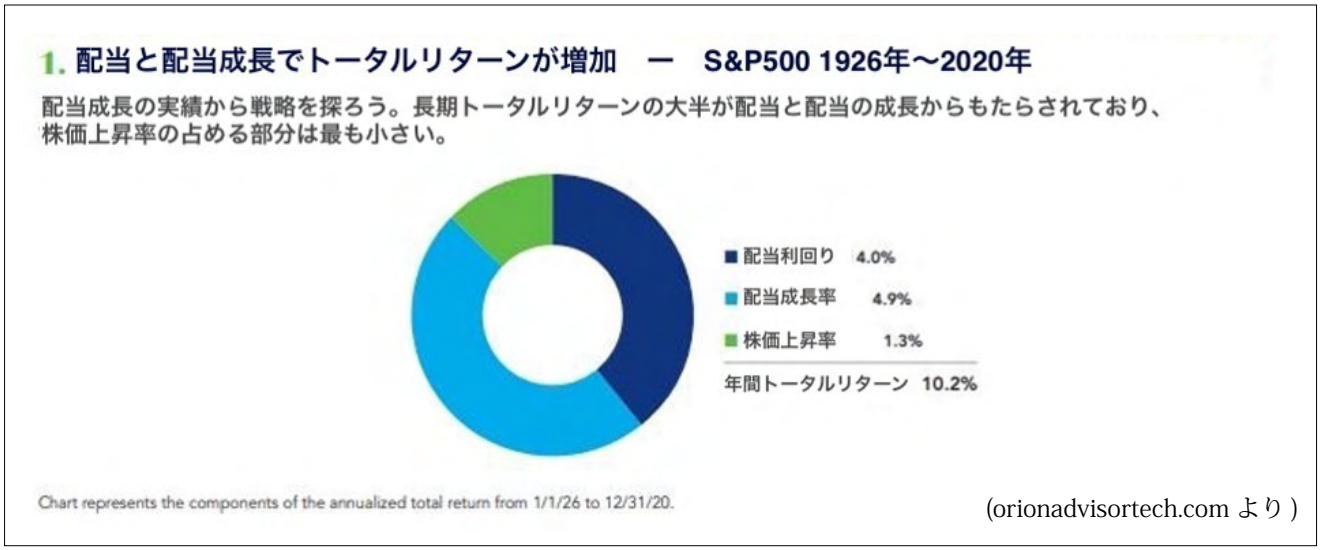


（moneychimp より）

なぜこんなに膨れ上がるのか？ このデータを見てください。

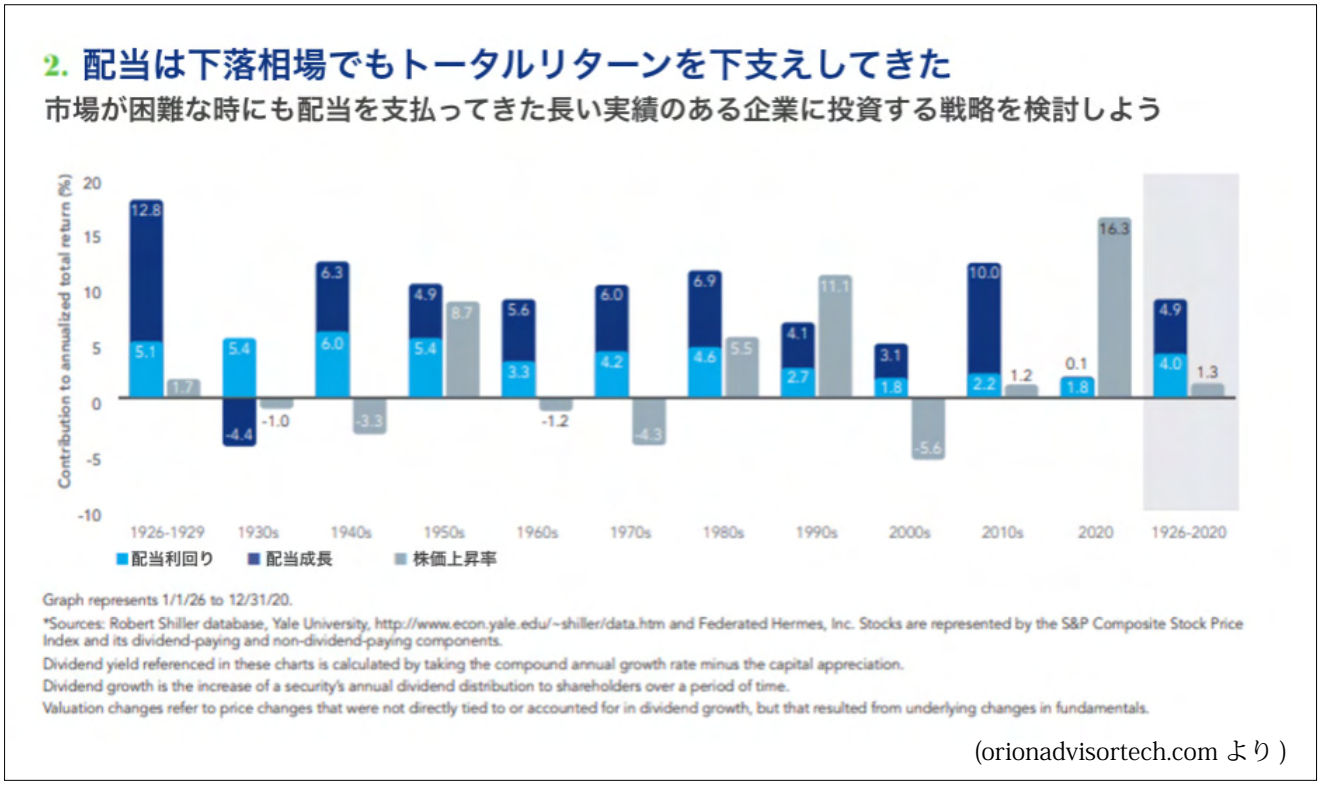
このデータは、S&P500 のリターンを生み出したものの内訳データです。
実は、S&P500 のリターンの 87%は配当と配当成長から来ています。

普段インパクトが大きく見える株価の値上がりからもたらされたリターンはごくわずかなんです。



(orionadvisortech.com より)

10 年ごとに分解してみてもよく分かります。値上がりからもたらされるリターンは期間によっては小さかったり、それどころかマイナスの時もあります。



(orionadvisortech.com より)

一方、配当と配当成長からもたらされたリターンは、

・世界大恐慌のあった 1930 年代でも、
・ブラックマンデーのあった 1980 年代でも、
・リーマンショックのあった 2000 年代でも、

これまでの 200 年間、コツコツとプラスを積み上げてきました。

一般に大きなリターンを狙う成長株と言われる企業は配当を出さないことがよくあります。実際 GAFAM の中でも、Google・Amazon は配当を出していませんし、出していても、

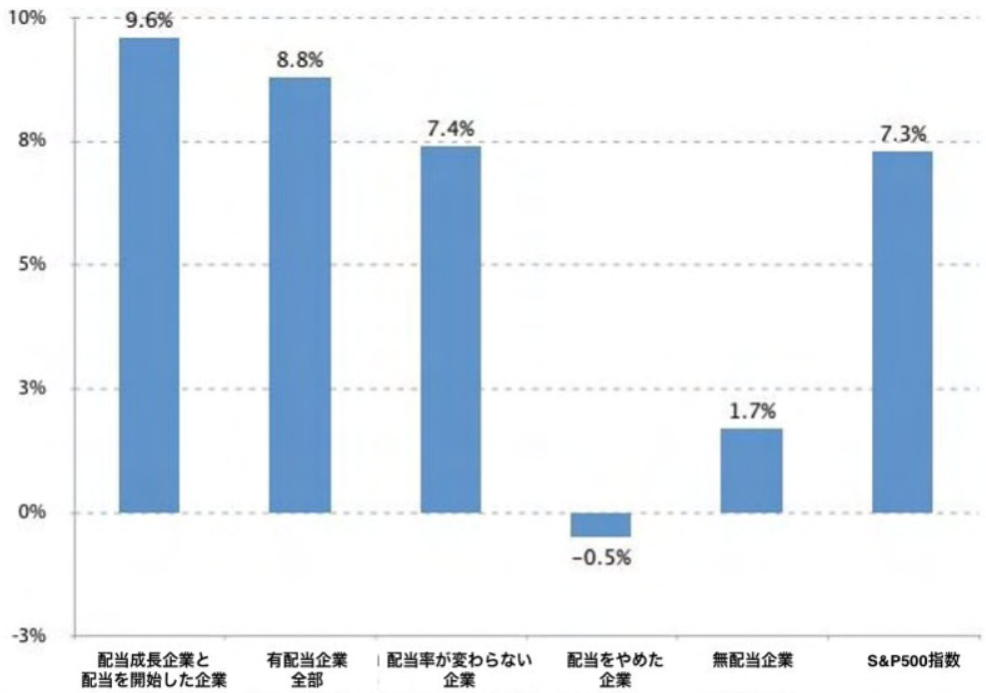
・Apple 0.57%
・Meta（Facebook）0.40%
・Microsoft 0.75%

（2024/3/6 時点）

と高配当とは言いがたい利回りです。しかしデータで歴史を振り返ると、売却益より配当によるリターンの方が実は大きいのです。

また、Guinness Atkinson Funds（ギネス・アトキンソン・ファンズ）のレポート「Why Dividends Matter（なぜ配当が重要か）」では、ファンドマネージャーの Ian Mortimer（イアン・モーティマー）博士と Matthew Page（マシュー・ペイジ）氏が、投資家にとって配当が重要である理由をさらに詳しく説明しています。

例えば、配当を出す企業は出さない企業よりリターンが大きくなります。1972 年から 2010 年の間、S&P500 の平均リターンは 7.3%。一方で有配当企業の平均リターンは 8.8%。さらに無配当銘柄は 1.7% のリターンとなり、S&P を下回っています。アマゾンや Google は例外中の例外なのです。



[1]*Dividend Cutters and Eliminators represents stocks in the S&P500 that have lowered or eliminated their dividend; Non-Dividend-Paying Stocks represent non-dividend paying stocks of the S&P500; Dividend Payers with No Change represents all dividend-paying stocks of the S&P500 that have maintained their existing dividend rate; all Dividend-Paying stocks represents all dividend-paying stocks in the S&P500; and Dividend Growers and Initiators represents all dividend-paying stocks of the S&P500 that raised their existing dividend or initiated a new dividend.*

（Why Dividends Matter 3 ページより）

他にも、経済が低迷している時は配当が総リターンの 75%を占めていることや、景気後退期には、S&P500 の 1 株当たり利益 (EPS) は 42% も低下することがあるが、1 株当たりの配当は平均 8%しか下がらないことなどが説明されます。

地味に見える配当の、投資家に長期でもたらすリターンが非常に強力なこと、お分かりいただけたでしょうか？　長期投資でこそ、配当は真の実力を発揮することができると言えます。この点で、配当は多くの投資家を魅了するのかもしれません。

ですが…このように数字で見せられるだけでは、まだピンと来ていないかもしれません。だって、100 万円投資をしたときの配当金が年 3-4 万円だという現実には変わりないですから。

そんなあなたにも配当の凄さを実感してほしいと思っています。

なぜなら、これから日本人にとって必須の知識となっていくであろう投資に対して、できるだけフラットな正しい知識を持ってほしいからです。そして、無謀な賭けのような投資でお金をなくすことも、反対に恐れすぎて何もせずにインフレでお金を減らしてしまうこともないようにしてほしいからです。

岸田政権が掲げる「所得倍増プラン」。

このプランでは貯蓄から投資へのシフトがメインに据えられています。日本の家計の金融資産 2000 兆円のうち、半分以上を占め眠っている現預金。これらを叩き起こして、経済を活性化させようとしています。

そして言いっぱなしで終わることなく、実際に NISA は大幅に拡充されました。開始から 1 カ月経った 2024 年 2 月の時点で、資金流入は 1.8 兆円。これは旧 NISA のなんと 3 倍のペースです。

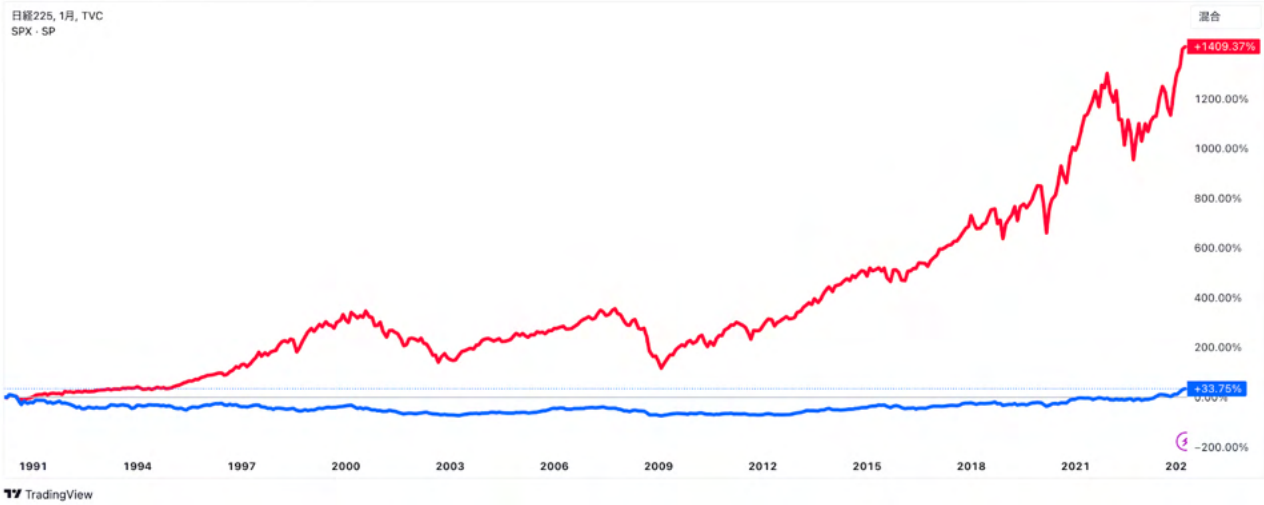
これまで日本では、「投資は一部の富裕層だけがやるもの」という考えが根強く残っていました。それが今になってやっと変わりつつあるのです。投資は日本人みんなのものになり、必須の知識になっていきます。

全くリスクのない投資法は存在しないのは事実ですが、その中でも力強く、かつできるだけ安全で堅実にお金を増やす方法をお伝えしたいと思っています。

しかしそれを実現するのは、日本企業への投資だと難しいかもしれません。なぜなら、日本市場は過去 35 年もの間ずっと停滞していたからです。

こちらの青い線は日経平均株価のチャートです。1990 年から 35 年間投資し続けて +33%。2024 年の 3 月に日経平均 4 万円を突破したことは大きく話題になりましたが、もう少し長期的な目線で見てみると…　仮に 100 万円を投資していたとしたら、増えたのは 33 万円ほどです。

一方で、米国株の代表指数 S&P500 の赤い線を見てください。同じ 35 年の間で +1,409%。100 万円を投資していたら、1400 万円近く増えていたことになります。日経平均株価と比べるとなんと 42 倍の差です。



(TradingView より　1990/3/1-2024/3/1)

もちろん米国市場も 35 年間、一度も止まらずに上昇し続けていたわけではありません。リーマンショックや最近の利上げショックなどの暴落を何回か経験しています。でも、その暴落を乗り越えた後にさらに大きく上昇していることは、チャートを見れば分かると思います。

そんな訳で、力強くかつできるだけ堅実にお金を増やすためには、米国市場へ投資するのが良いと私たちは考えます。先ほどデータで示した通りの素晴らしいポテンシャルを秘めた配当を活用して、上昇する米国市場に投資することで、配当のパワーを大きく引き出すことができます。

その一歩目としてこのレポートでは、年 100 万円の配当収入を作る方法をご説明します。

年 100 万円、つまり月に大体 8 万円。年金や給料以外に、あなたの口座に月 8 万円の定期収入が入ってくる状態です。

配当が魅力的な、ある 3 つの米国株を使って、30 年後のあなたの口座に年 100 万円の不労収入が入ってくることを狙える方法です。
（将来の成果を保証するものではありません）

必要な初期投資の資金は 100 万円。あとは米国株に投資できる証券口座です。手数料の低いネット証券口座をおすすめします。世界的に有名で、おそらくあなたも名前を聞いたことがあるような米国の大企業の株を使うので、大体の大手証券会社なら買うことができます。

この方法は、毎日株価を忘れずにチェックしたり、チャートを使いこなす必要はありません。特別なスキルを身につける必要はなく、普通の学習意欲と知識がある人なら、誰でもできます。

だから証券口座さえあれば、今日このレポートを読み終わった瞬間から始めることができますし、始めたあとも、自分の全ての時間を投資に捧げる必要はありません。

では、始めましょう。

30年後に年100万円の配当収入を作るための3ステップ

やるべきことは、全部で３つです。まずは、

１. 最後に紹介する配当王３銘柄を買う

使うのは「配当王」と呼ばれる株です。

50 年以上連続で増配、つまり配当を増やし続けてきたという歴史をもつ株につけられる最高ランクの称号、それが「配当王」です。株主に還元できるぐらいの利益を得ている上に、その利益を 50 年以上もの間毎年増やし続けることができる企業はそう多くありません。

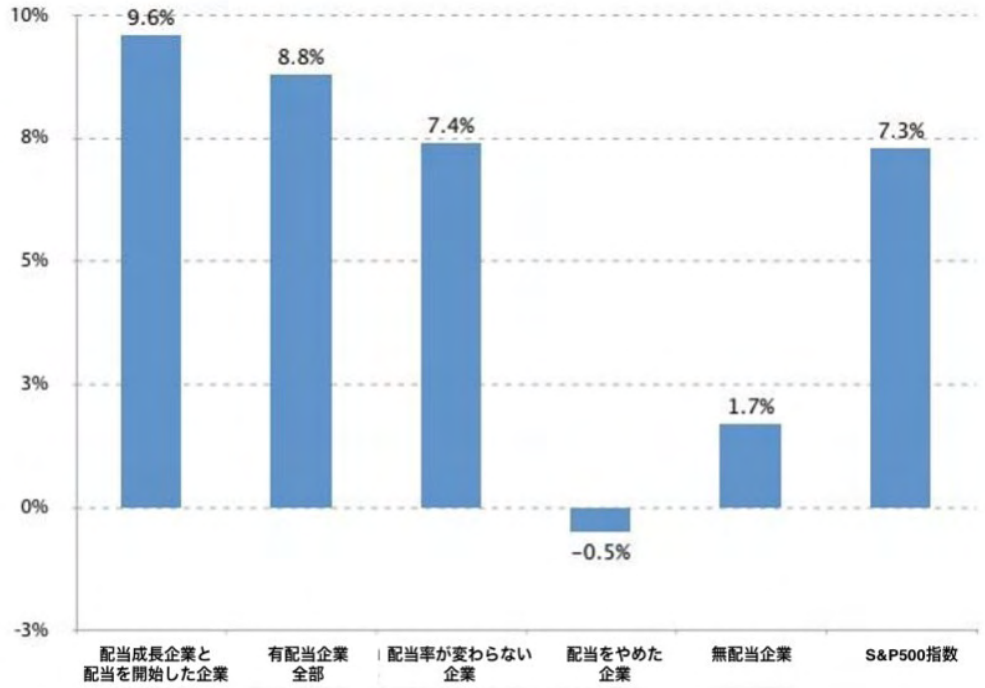
日本では花王がトップの 34 年連続増配を達成していますが、配当王は存在しません。世界経済を牽引する米国でも 55 社しかありません。そして、なかなか得ることのできない称号だからこそ、一度配当王になった企業は、死に物狂いでその称号を守り続けます。

それだけ、増配株は投資家が得られるリターンも大きい傾向があります。

先ほどお見せしたこのグラフ。最も大きなリターン 9.6％を獲得しているのも実は増配株です。株投資でリターンを狙うならば、増配株を選ぶべきだということが分かります。

図1：S&P500指数中の株のトータルリターン実績（1972年-2010年）

Source: Ned Davis Research, December 31, 2011[1]



[1]*Dividend Cutters and Eliminators represents stocks in the S&P500 that have lowered or eliminated their dividend; Non-Dividend-Paying Stocks represent non-dividend paying stocks of the S&P500; Dividend Payers with No Change represents all dividend-paying stocks of the S&P500 that have maintained their existing dividend rate; all Dividend-Paying stocks represents all dividend-paying stocks in the S&P500; and Dividend Growers and Initiators represents all dividend-paying stocks of the S&P500 that raised their existing dividend or initiated a new dividend.*

（Why Dividends Matter ３ページより）

でも、増配株だったらどんな株でも良いわけではありません。

30 年後に 100 万円の配当収入を達成するために、この指標を見ます。「増配率」です。増配率とは、増配株が前年に比べてどれだけ配当金を増やしたか、を指します。

増配率＝当年の配当額／前年の配当額 -1

ところで、増配率をどのように投資に組み込むかを説明する前に、複利について説明しなくてはいけないでしょう。

資産形成に関心があるあなたなら、複利についてはすでに知っているでしょう。利息にも利息がつくので雪だるま式に資産が増えていく、お金を増やそうと思ったときには必ず取り込むべきパワーです。

そして、もし配当金が地味なものだと感じていたなら、まだ複利の凄まじさをまだ実感できていないかもしれません。配当は複利の力でこそ、最大限そのポテンシャルを発揮することができるのです。

そのためにやるのが、この 2 ステップ目。
それが、

2．配当をもらったら、同じ配当王に再投資する

配当王で得られた配当を、同じ配当王に再投資することで複利パワーを取り込みます。

どういうことか？　配当金額の簡単なシミュレーションをしてみましょう。例えば 100 万円を配当利回り 3% の株で 30 年間運用し続けたとします。ここで為替は考慮していませんが、NISA 口座を使うことで、配当金受け取りにかかる約 20％の税金をゼロにすることができます。ここで出てくる配当額を、税金で引かれることなく手に入れることができるということです。

30 年目にもらえる配当金は、配当再投資をしてなければ 3 万円。配当再投資をしていたら 7 万円。2 倍以上の差が生まれています。累計でもらえた配当金には、50 万円という馬鹿にならない差が生まれています。

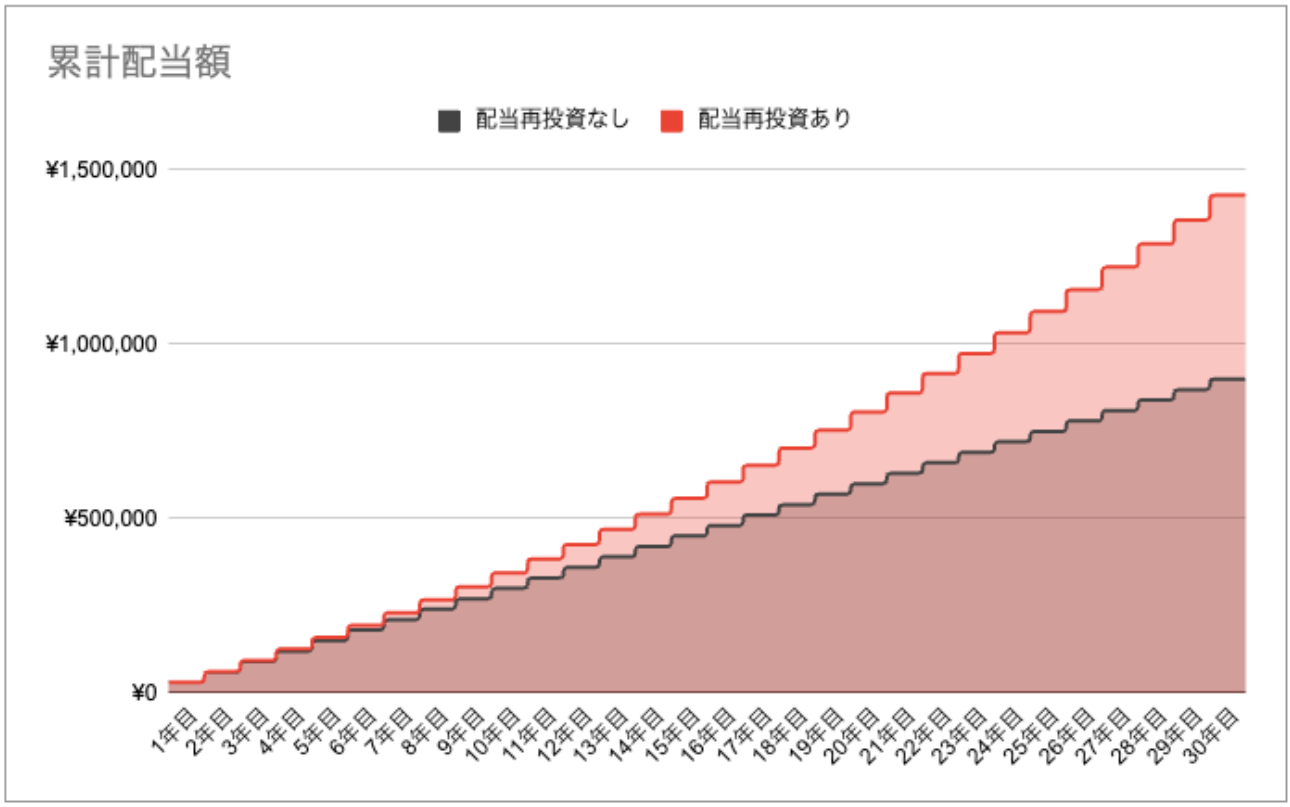
配当再投資なし

年数	元本	配当利回り	配当額	累計配当額
1 年目	¥1,000,000	3%	¥30,000	¥30,000
2 年目	¥1,000,000	3%	¥30,000	¥60,000
3 年目	¥1,000,000	3%	¥30,000	¥90,000
4 年目	¥1,000,000	3%	¥30,000	¥120,000
5 年目	¥1,000,000	3%	¥30,000	¥150,000
6 年目	¥1,000,000	3%	¥30,000	¥180,000
7 年目	¥1,000,000	3%	¥30,000	¥210,000
8 年目	¥1,000,000	3%	¥30,000	¥240,000
9 年目	¥1,000,000	3%	¥30,000	¥270,000
10 年目	¥1,000,000	3%	¥30,000	¥300,000
11 年目	¥1,000,000	3%	¥30,000	¥330,000
12 年目	¥1,000,000	3%	¥30,000	¥360,000
13 年目	¥1,000,000	3%	¥30,000	¥390,000
14 年目	¥1,000,000	3%	¥30,000	¥420,000
15 年目	¥1,000,000	3%	¥30,000	¥450,000
16 年目	¥1,000,000	3%	¥30,000	¥480,000
17 年目	¥1,000,000	3%	¥30,000	¥510,000
18 年目	¥1,000,000	3%	¥30,000	¥540,000
19 年目	¥1,000,000	3%	¥30,000	¥570,000
20 年目	¥1,000,000	3%	¥30,000	¥600,000
21 年目	¥1,000,000	3%	¥30,000	¥630,000
22 年目	¥1,000,000	3%	¥30,000	¥660,000
23 年目	¥1,000,000	3%	¥30,000	¥690,000
24 年目	¥1,000,000	3%	¥30,000	¥720,000
25 年目	¥1,000,000	3%	¥30,000	¥750,000
26 年目	¥1,000,000	3%	¥30,000	¥780,000
27 年目	¥1,000,000	3%	¥30,000	¥810,000
28 年目	¥1,000,000	3%	¥30,000	¥840,000
29 年目	¥1,000,000	3%	¥30,000	¥870,000
30 年目	¥1,000,000	3%	¥30,000	¥900,000

配当再投資あり

年数	元本	配当利回り	配当額	累計配当額
1 年目	¥1,000,000	3%	¥30,000	¥30,000
2 年目	¥1,030,000	3%	¥30,900	¥60,900
3 年目	¥1,060,900	3%	¥31,827	¥92,727
4 年目	¥1,092,727	3%	¥32,782	¥125,509
5 年目	¥1,125,509	3%	¥33,765	¥159,274
6 年目	¥1,159,274	3%	¥34,778	¥194,052
7 年目	¥1,194,052	3%	¥35,822	¥229,874
8 年目	¥1,229,874	3%	¥36,896	¥266,770
9 年目	¥1,266,770	3%	¥38,003	¥304,773
10 年目	¥1,304,773	3%	¥39,143	¥343,916
11 年目	¥1,343,916	3%	¥40,317	¥384,234
12 年目	¥1,384,234	3%	¥41,527	¥425,761
13 年目	¥1,425,761	3%	¥42,773	¥468,534
14 年目	¥1,468,534	3%	¥44,056	¥512,590
15 年目	¥1,512,590	3%	¥45,378	¥557,967
16 年目	¥1,557,967	3%	¥46,739	¥604,706
17 年目	¥1,604,706	3%	¥48,141	¥652,848
18 年目	¥1,652,848	3%	¥49,585	¥702,433
19 年目	¥1,702,433	3%	¥51,073	¥753,506
20 年目	¥1,753,506	3%	¥52,605	¥806,111
21 年目	¥1,806,111	3%	¥54,183	¥860,295
22 年目	¥1,860,295	3%	¥55,809	¥916,103
23 年目	¥1,916,103	3%	¥57,483	¥973,587
24 年目	¥1,973,587	3%	¥59,208	¥1,032,794
25 年目	¥2,032,794	3%	¥60,984	¥1,093,778
26 年目	¥2,093,778	3%	¥62,813	¥1,156,591
27 年目	¥2,156,591	3%	¥64,698	¥1,221,289
28 年目	¥2,221,289	3%	¥66,639	¥1,287,928
29 年目	¥2,287,928	3%	¥68,638	¥1,356,566
30 年目	¥2,356,566	3%	¥70,697	¥1,427,262

グラフで見ると、より分かりやすいかもしれません。
配当金を再投資するかしないか、それだけでこれだけの差が生まれます。



そして重要なのが、**配当王を使うことによってこの差はもっと広げることができることです。**ここで使うのが、先ほどの「増配率」。この増配率こそが、**配当そのものが複利成長する“第二の複利パワー”**と言えるのです。

配当王に配当再投資をすることで、その”第二の複利パワー”を取り込みます。

配当王として、またバフェットが好む投資先としても有名なのが、コカコーラ（KO）です。コカコーラの直近５年間の増配率は平均3.3%。

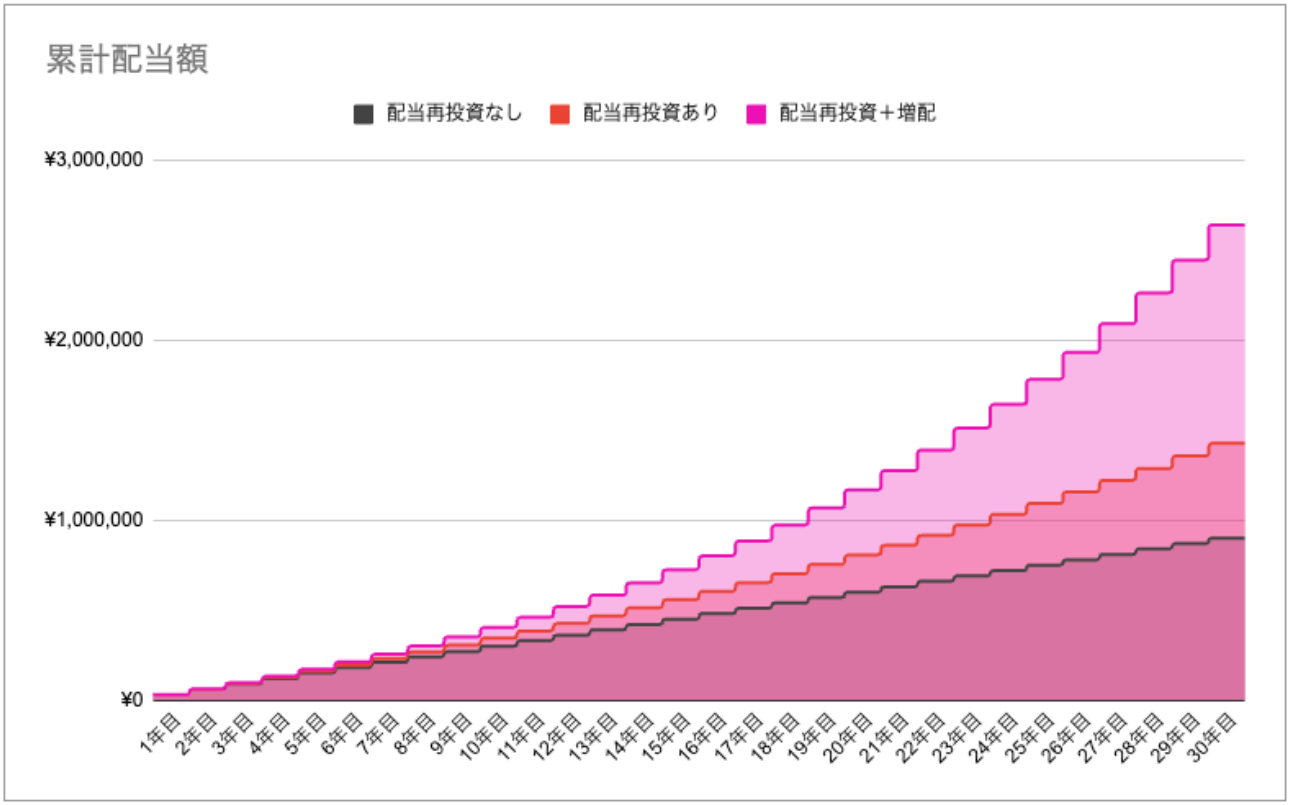
他にも、増配年数が長い配当王として有名な3M（MMM）は平均 0.9%。ドーバー（DOV）は平均 0.6%。

これらの数字でシミュレーションをしてみましょう。先ほどと同じ 100 万円を配当利回り 3%で運用するのですが、配当自体もそれぞれの増配率で複利成長していきます。

30 年目にもらえる配当額は増配率 0.6%だと 9 万円。増配率 0.9% だと 9.8 万円、増配率 3.3% だと 19 万円を超えました。累計配当額の差は凄まじく、たった 2 ～ 3%違うだけで、100 万円近くの差がついていることが分かります。

年数	増配率0.6%で成長				増配率0.9%で成長				増配率3.3%で成長			
	元本	配当利回り	配当額	累計配当額	元本	配当利回り	配当額	累計配当額	元本	配当利回り	配当額	累計配当額
1年目	¥1,000,000	3.00%	¥30,000	¥30,000	¥1,000,000	3.00%	¥30,000	¥30,000	¥1,000,000	3.00%	¥30,000	¥30,000
2年目	¥1,030,000	3.02%	¥31,085	¥61,085	¥1,030,000	3.03%	¥31,178	¥61,178	¥1,030,000	3.10%	¥31,920	¥61,920
3年目	¥1,061,085	3.04%	¥32,216	¥93,301	¥1,061,178	3.05%	¥32,408	¥93,586	¥1,061,920	3.20%	¥33,968	¥95,888
4年目	¥1,093,301	3.05%	¥33,393	¥126,694	¥1,093,586	3.08%	¥33,693	¥127,279	¥1,095,888	3.31%	¥36,154	¥132,042
5年目	¥1,126,694	3.07%	¥34,619	¥161,313	¥1,127,279	3.11%	¥35,034	¥162,313	¥1,132,042	3.42%	¥38,488	¥170,531
6年目	¥1,161,313	3.09%	¥35,897	¥197,211	¥1,162,313	3.14%	¥36,436	¥198,749	¥1,170,531	3.53%	¥40,980	¥211,511
7年目	¥1,197,211	3.11%	¥37,229	¥234,439	¥1,198,749	3.17%	¥37,900	¥236,649	¥1,211,511	3.65%	¥43,641	¥255,152
8年目	¥1,234,439	3.13%	¥38,617	¥273,056	¥1,236,649	3.19%	¥39,430	¥276,079	¥1,255,152	3.77%	¥46,483	¥301,634
9年目	¥1,273,056	3.15%	¥40,064	¥313,120	¥1,276,079	3.22%	¥41,030	¥317,109	¥1,301,634	3.89%	¥49,519	¥351,153
10年目	¥1,313,120	3.17%	¥41,573	¥354,693	¥1,317,109	3.25%	¥42,702	¥359,810	¥1,351,153	4.02%	¥52,763	¥403,916
11年目	¥1,354,693	3.18%	¥43,146	¥397,839	¥1,359,810	3.28%	¥44,450	¥404,261	¥1,403,916	4.15%	¥56,230	¥460,146
12年目	¥1,397,839	3.20%	¥44,787	¥442,626	¥1,404,261	3.31%	¥46,279	¥450,539	¥1,460,146	4.29%	¥59,935	¥520,081
13年目	¥1,442,626	3.22%	¥46,500	¥489,126	¥1,450,539	3.34%	¥48,191	¥498,731	¥1,520,081	4.43%	¥63,897	¥583,978
14年目	¥1,489,126	3.24%	¥48,287	¥537,413	¥1,498,731	3.37%	¥50,192	¥548,923	¥1,583,978	4.58%	¥68,133	¥652,111
15年目	¥1,537,413	3.26%	¥50,151	¥587,564	¥1,548,923	3.40%	¥52,286	¥601,209	¥1,652,111	4.73%	¥72,663	¥724,774
16年目	¥1,587,564	3.28%	¥52,098	¥639,662	¥1,601,209	3.43%	¥54,478	¥655,687	¥1,724,774	4.88%	¥77,510	¥802,284
17年目	¥1,639,662	3.30%	¥54,131	¥693,793	¥1,655,687	3.46%	¥56,772	¥712,459	¥1,802,284	5.04%	¥82,695	¥884,980
18年目	¥1,693,793	3.32%	¥56,253	¥750,046	¥1,712,459	3.49%	¥59,174	¥771,633	¥1,884,980	5.21%	¥88,244	¥973,224
19年目	¥1,750,046	3.34%	¥58,470	¥808,516	¥1,771,633	3.53%	¥61,690	¥833,323	¥1,973,224	5.38%	¥94,184	¥1,067,408
20年目	¥1,808,516	3.36%	¥60,786	¥869,303	¥1,833,323	3.56%	¥64,324	¥897,647	¥2,067,408	5.56%	¥100,543	¥1,167,950
21年目	¥1,869,303	3.38%	¥63,206	¥932,509	¥1,897,647	3.59%	¥67,085	¥964,732	¥2,167,950	5.74%	¥107,351	¥1,275,302
22年目	¥1,932,509	3.40%	¥65,736	¥998,245	¥1,964,732	3.62%	¥69,977	¥1,034,709	¥2,275,302	5.93%	¥114,644	¥1,389,945
23年目	¥1,998,245	3.42%	¥68,379	¥1,066,624	¥2,034,709	3.65%	¥73,009	¥1,107,718	¥2,389,945	6.13%	¥122,455	¥1,512,400
24年目	¥2,066,624	3.44%	¥71,144	¥1,137,768	¥2,107,718	3.69%	¥76,187	¥1,183,905	¥2,512,400	6.33%	¥130,825	¥1,643,225
25年目	¥2,137,768	3.46%	¥74,034	¥1,211,802	¥2,183,905	3.72%	¥79,519	¥1,263,424	¥2,643,225	6.54%	¥139,794	¥1,783,019
26年目	¥2,211,802	3.48%	¥77,058	¥1,288,860	¥2,263,424	3.75%	¥83,013	¥1,346,437	¥2,783,019	6.76%	¥149,409	¥1,932,428
27年目	¥2,288,860	3.50%	¥80,221	¥1,369,081	¥2,346,437	3.79%	¥86,678	¥1,433,115	¥2,932,428	6.98%	¥159,716	¥2,092,144
28年目	¥2,369,081	3.53%	¥83,531	¥1,452,612	¥2,433,115	3.82%	¥90,524	¥1,523,639	¥3,092,144	7.21%	¥170,769	¥2,262,913
29年目	¥2,452,612	3.55%	¥86,995	¥1,539,607	¥2,523,639	3.86%	¥94,559	¥1,618,198	¥3,262,913	7.45%	¥182,625	¥2,445,538
30年目	¥2,539,607	3.57%	¥90,621	¥1,630,228	¥2,618,198	3.89%	¥98,794	¥1,716,992	¥3,445,538	7.69%	¥195,343	¥2,640,881

先ほど、配当再投資あり / なしでシミュレーションした際のグラフと同じものに、増配率 3.3% の場合を加えてみました。その差は歴然です。



ここで思い出してほしいのが、**どのシミュレーションも元本は同じ 100 万円だということです。**配当再投資をするかしないか、また増配という“第二の複利”を使うか使わないかで、これほど大きな差が出ます。

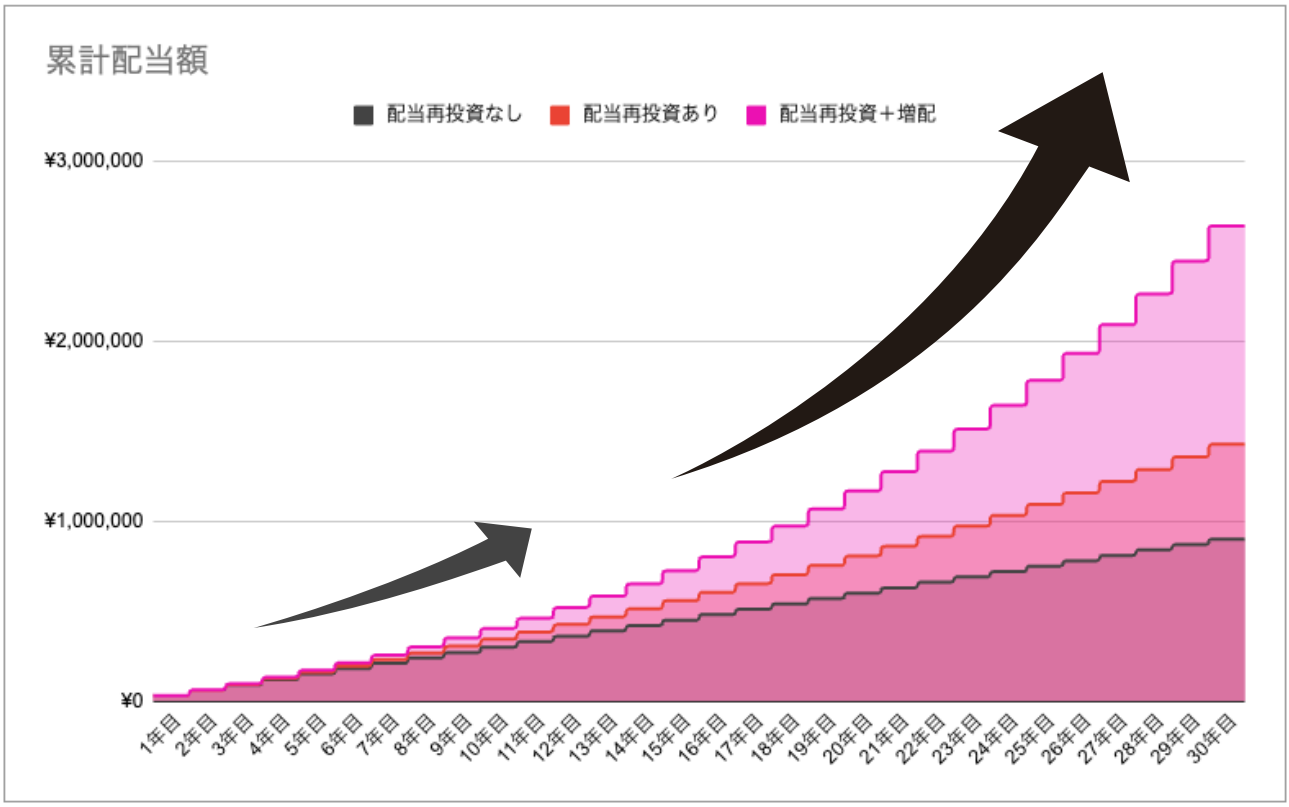
最後のステップです。それは、

3. 絶対に売らない

お分かりの通り、せっかくの配当を生み出すニワトリ、配当王は売却してしまえば、もちろんその後配当をもらうことができなくなります。株価が上がったから売ってしまう、また逆に株価が下がってきたからといって、売ってしまうようなことも当然ですが絶対にしないでください。

なぜなら、せっかく膨らみ続けてきた複利パワーが途中で中断されてしまうからです。

先ほどのグラフをもう一度見てみてください。始めたばかりと比べて20年、30年経ってくると、成長の角度が大幅に大きくなっています。



ここで使う複利は、時間をかければかけた分だけ、効果が大きくなっていくものです。途中でやめてしまうとまた最初からやり直しになります。**裏を返せば、かける時間が長ければ長いほど強大にすることができるということです。**

ぜひ、このレポートを読み終わったらすぐに始めてください。

さて、お待たせしました。

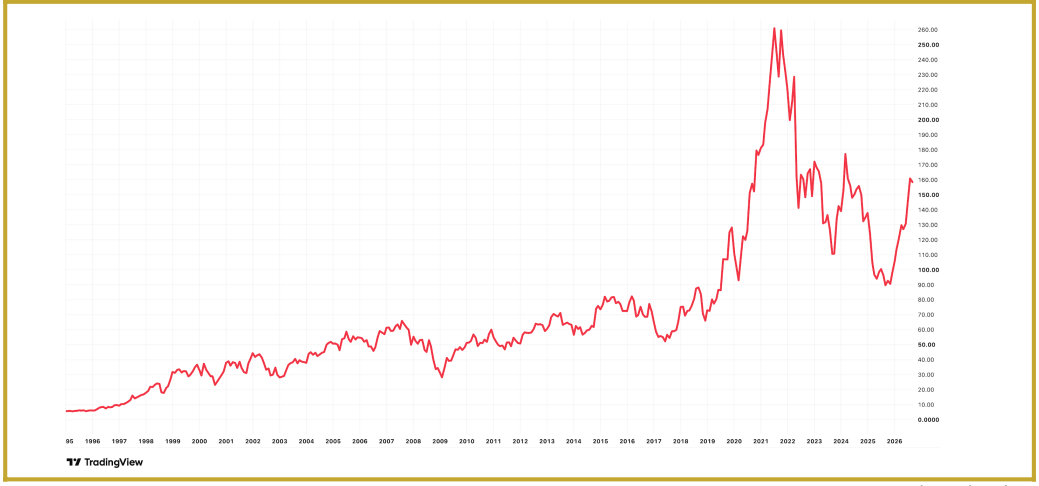
肝心の、この3ステップを使うべき「配当王3銘柄」を公開します。米国人アナリストのショーン・マッキンタイアが分析し、厳選した3銘柄です。銘柄情報の後ろには、この3銘柄を使って年100万円の配当収入を作る時のシミュレーションも載せましたので、ぜひご覧ください。

厳選・配当王銘柄　#1	連続増配年数
ターゲット・コーポレーション	55年

データ基準日：　2026/09/29

ティッカー	TGT
配当利回り	2.93%
直近10年間の平均増配率	6.90%
現在価格（ドル）	157.45
時価総額（億ドル）	719.74
セクター	生活必需品

株価推移（1995/1/2-2026/9/1）



Trading Viewより

企業情報	総合小売企業。衣料品、アクセサリー、日用品、食料品、電化製品、インテリア用品、学校／事務用品、パーティー用品、その他季節商品など、幅広い商品を提供。 1902年に設立され、ミネソタ州ミネアポリスに本社を置いている。

▼選定アナリスト ショーン・マッキンタイアの分析

ウォール街のアナリストによれば、ターゲット・コーポレーション（TGT）は長期的な強気相場入りの可能性があるという。実際、すでに始まっているのかもしれない。2021年の高値から下落した後、2023年10月から2024年3月の間に60%以上上昇した。市場全体のパフォーマンスの約3倍である。

同社の数字を調べれば、その理由はすぐにわかる。2023年1月と2024年2月に発行された年次報告書を比較すると、ターゲットの税引き後純利益は32億ドルから46億ドルに増加している。

その好業績の大部分は、成長のために多額の投資を行っていることに起因している。ターゲットは2023年に48億ドルの設備投資を行ったが、その大半は21店舗の新規出店と世界170店舗の改装・強化に充てられた。また、サプライチェーンを強化するために複数の施設を建設している。

同社はまた、他の企業と提携して「ショップ・イン・ショップ」をオープンすることによって成長を続けている。ショップ・イン・ショップとは、ターゲットの大きな店舗の中にある別の小さな店舗を意味する。ターゲットはすでに、アルタ、ディズニー、アップル、リーバイス、スターバックスなどで「ショップ・イン・ショップ」を多数展開している。

加えて、ロイヤルティ会員プログラムの再導入とブランド・ポートフォリオの拡大にも投資している。同社は、2024年にターゲット・サークル・ロイヤリティ・プログラムを再開し、いくつかの新しい自社ブランドを立ち上げる予定である。

売上高は短期的には厳しい状況が続くと予想されるが、長期的な成長に関するこうしたポジティブなニュースを受けて、多くのアナリストがターゲットの目標株価を引き上げている。アーガス・リサーチとオッペンハイマー・インベストメント・バンクは、ターゲットの目標株価を共に200ドルに引き上げた。投資銀行のジェフリーズ・グループは目標株価を195ドルに引き上げた。

配当投資家にとってターゲットは引き続き魅力的な銘柄になるだろう。

厳選・配当王銘柄　#2

ジョンソン・エンド・ジョンソン

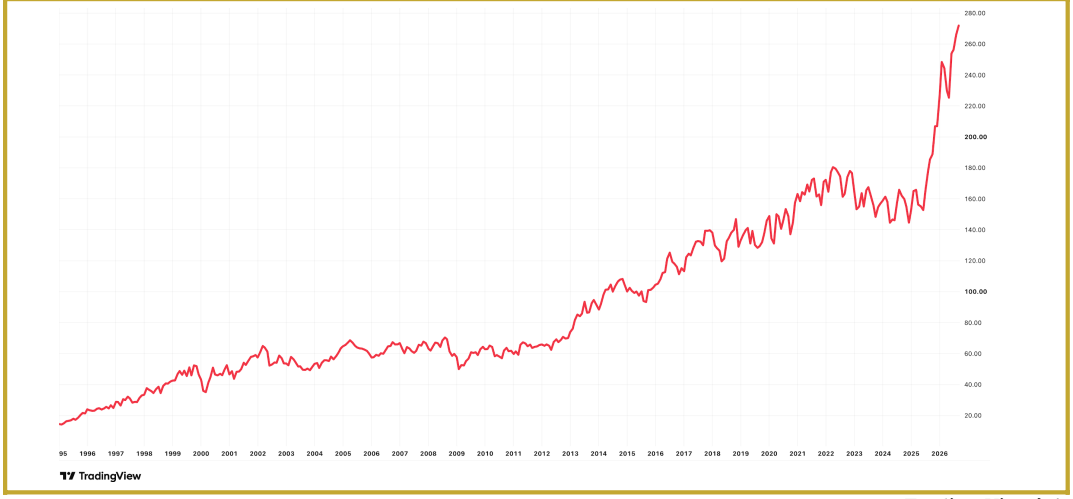
連続増配年数

64年

データ基準日：　2026/09/29

ティッカー	JNJ
配当利回り	1.97%
直近10年間の平均増配率	5.02%
現在価格（ドル）	271.22
時価総額（億ドル）	6,553.72
セクター	ヘルスケア

株価推移（1995/1/2-2026/9/1）



Trading Viewより

企業情報	ヘルスケア分野における様々な製品の研究、開発、製造、販売を世界中で行っている。製薬、医療技術の2つのセグメントで事業を展開。卸売業者、病院、小売業者などに製品を販売。 1886年に設立され、ニュージャージー州ニューブランズウィックに本社を置いている。

▼選定アナリスト ショーン・マッキンタイアの分析

ジョンソン・エンド・ジョンソン（JNJ）は、消費者向けブランド事業を分社化した後も、医薬品から医療機器、診断薬まで幅広い事業を展開する世界最大かつ最も多様性のあるヘルスケア企業のひとつである。

ジョンソン・エンド・ジョンソンが、ケンビューという新会社として独立し、バンドエイドのようなブランドを製造している、成長の遅い消費者向け事業から撤退した理由のひとつは、ジョンソン・エンド・ジョンソンがバイオテクノロジー、特にがん治療薬のラインナップを増やそうとしているからである。

2024年3月、ジョンソン・エンド・ジョンソンがアンブレックス・バイオファーマ社を20億ドルで買収したとき、私たちはこれを実際に目にした。アンブレックスは（臨床段階の創薬と開発に特化した）バイオテクノロジー企業で、化学療法を伴わない前立腺がんの刺激的な新治療法に取り組んでいる。

現在のパイプラインと最近行った買収の結果、ジョンソン・エンド・ジョンソンは治療部門で約5％～7％の成長を見込んでいて、これは同社にとって驚くべき成長率である。同社の医薬品パイプラインには、10億ドル以上の収益を生み出す可能性のあるブランドが10種類以上あり、2030年までに70種類以上の新薬の研究・上市を見込んでいる。

簡単に言えば、ジョンソン・エンド・ジョンソンは利益創出マシーンであり続け、その現金を株主に還元してきた。

今後数年間は新たなキャッシュフローが見込まれるため、さらに上昇するかもしれない。

厳選・配当王銘柄　#3

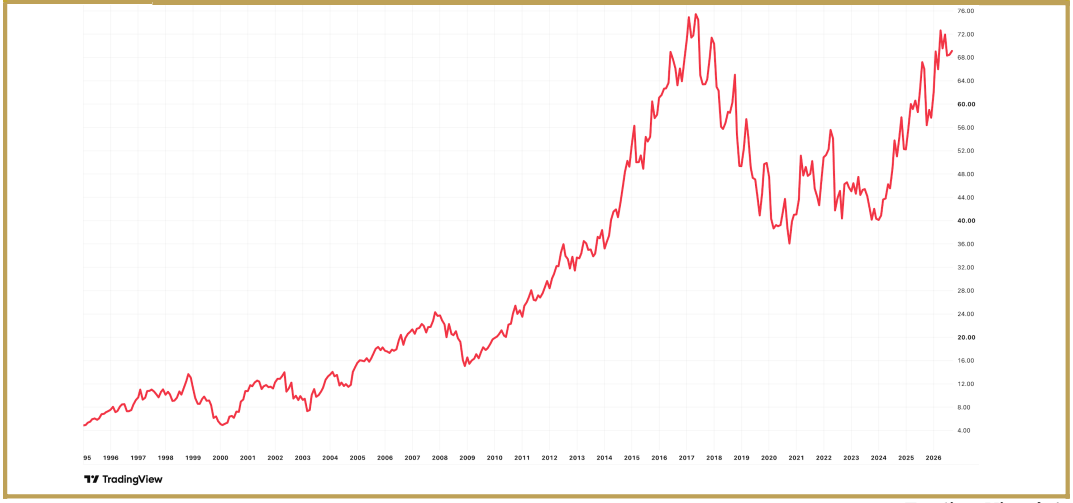
アルトリア・グループ

連続増配年数
57年

データ基準日：　2026/09/29

ティッカー	MO
配当利回り	6.42%
直近10年間の平均増配率	5.88%
現在価格（ドル）	68.82
時価総額（億ドル）	1,154.29
セクター	生活必需品

株価推移（1995/1/2-2026/9/1）



Trading Viewより

企業情報	米国でタバコ製品を製造・販売。主力ブランドはマールボロで、流通業者やチェーンストアなどに販売。 1822年に設立され、バージニア州リッチモンドに本社を置いている。

▼選定アナリスト ショーン・マッキンタイアの分析

アルトリア・グループ（MO）は過去5年間、事実上横ばいで推移してきた。株価が40ドルから50ドルのレンジを抜けることはめったにない。投資家が利益を得ているのは、高利回りの配当金からである。

配当投資家にとってこれは心に留めておくべき重要な点だ。なぜなら、「値上がり益」だけが私たちが望むものではないからだ。また、配当を含んだリターンも考慮しなければならない。そうすると、リターンの大きな乖離が見られる。

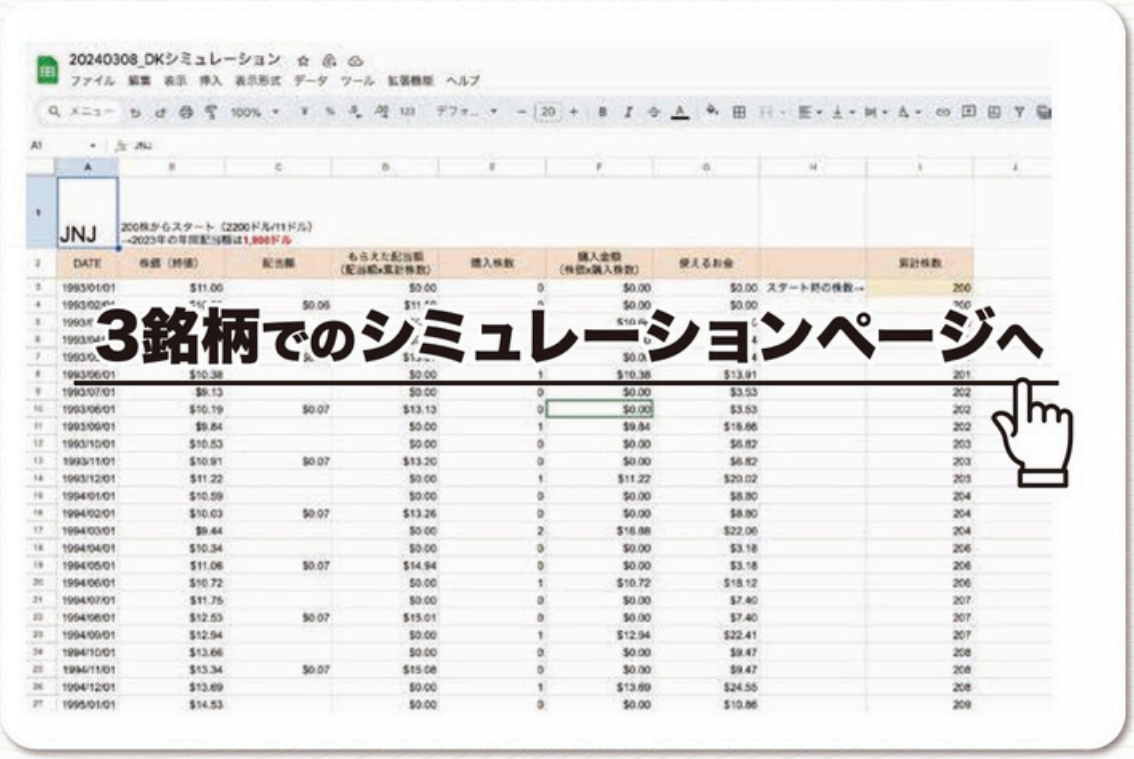
アルトリアの株価は2019年3月から2024年3月までで22.9%下落しているが、配当を織り込むと、株価は14.1%の上昇になる。このようなトータル・リターンの利益は、アルトリアが非常に収益性の高いグローバル企業であり、強力なキャッシュフローを生み出し、投資家に還元してきた歴史から生まれたものである。

また、世界が禁煙に移行する中、アルトリアはE-Vapor製品などの、無煙ニコチン製品を提供するリーダー的存在だ。喫煙者の数は年々減少しているが、無煙ニコチン製品の消費者数は倍増している。

そしてこの新たな成長源によって、アルトリアは好調な財務実績を示し続けている。
実際、2023年の1株当たり利益は2.3%増加した。

会社の勢いは安定している。2024年についてアルトリアは、2023年の1株当たり4.95ドルから1%～4%の成長率に相当する、5.00ドル～5.15ドルの利益を引き続き見込んでいると語った。
しかし、この成長は2024年後半に起こると予想されている。同社はその利益から配当金と自社株買戻しで約78億ドルを支払い、株主に報いた。

この報酬が具体的にどれほどのものかは、現在株価と配当利回りから見て取れる。


20240308_DKシミュレーション
ファイル 編集 表示 挿入 表示形式 データ ツール 拡張機能 ヘルプ
JNJ
200株からスタート（2200ドル/11ドル）
→2023年の年間配当額は1,900ドル
DATE
株価（終値）
配当額
もらえた配当額（配当額×累計株数）
購入株数
購入金額（株価×購入株数）
使えるお金
累計株数
スタート時の株数→
3銘柄でのシミュレーションページへ

この最終ページまで目を通して下さった方へ

ここまで読まれているということはあなたの金融リテラシーは高くご自身やご家族の将来の為の資産形成に強い気持ちを持たれている方だと感じています。しかしあなたはこの様な事も頭に浮かんだのではないでしょうか？

・今更始めても、もう遅いんじゃないだろうか？
・この３銘柄だけじゃ心許ない、そもそもずっと増配するかも分からないのに ....。
・将来の資産形成の為に他の銘柄にも目を向けた方がいいのだろうか？

あなたが上記の様な懸念を抱くのは当然の事だと思います。ここで紹介した３銘柄は、米国人アナリスト ショーンマッキンタイアが「あなたの大事なお金を託すのに信頼できる。」と考え、厳選したものですが投資に絶対はありません。

もし、その様な懸念がある方は次のページを見てみて下さい。このレポートでは配当投資の始めのステップとして３銘柄を紹介しましたが、こちらの動画ではさらに分散して10年20年と持ち続けたい７銘柄を紹介をしています。一般的なマグニフィセント・セブンとは異なり例え暴落が起きたとしても安心して持ち続けられると自信を持って言えるような銘柄についてお伝えしています。

投資家として次のステップに進めるヒントがあります。

クリックして
ワンランク上の投資家になるヒントを見る